

学 校 経 営 計 画 (4月)				評価(3月)	
学校運営方針		教育基本法及び学校教育法に基づき、心身ともに逞しく、豊かな人間性と創造性を備え、国家の繁栄と人類の平和に寄与する生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題		今年度重点目標		具体的目標	
<p>教育活動全体を通して嘉穂高生としての自覚を持たせ、人としての「気高さ」を有する生徒の育成に向けた指導を充実させることができた。</p> <p>能動的な学びの場を取り入れるなど生徒の実態に即した授業改善を図り、第一進路希望実現に向けた学力の向上を図る。</p> <p>歴史と伝統を踏まえ、中高一貫教育校としての体制を確立し、地域の期待に応える教育活動を実践していく。</p>		<p>1 すべての教育活動の中で人間としての「気高さ」を追求する指導を行う。</p> <p>2 生徒の意欲を引き出す丁寧な指導を行い、生徒の希望進路を実現して、地域の信頼に応える。</p> <p>3 様々な生徒の個性や能力を伸ばし、学力のみならず、部活動や行事等の活性化を図る。</p> <p>4 『嘉穂ドリームコンパス』を推進し、生徒が夢をもって学習に取り組むための事業を実施する。</p> <p>5 中高一貫教育校としての教育内容を充実させ、地域の教育に対する期待に応える。</p> <p>6 「鍛ほめ嘉穂メソッド」を推進し、自尊感情を高め逆境に立ち向かう力をつける指導を行う。</p>		<p>1 嘉穂高生としての強い自覚と誇りを持ち、人間としての「気高さ」を重んじる生徒を育成する。</p> <p>2 文武両道の精神を重んじ、豊かな情操とともに、逞しく生きるための知力・体力・精神力を備えた生徒を育成する。</p> <p>3 真理と正義を愛し、生命あるものを尊び、「思いやりの心や共に生きる心」と「人権」を尊重する生徒を育成する。</p> <p>4 日本文化と伝統を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、社会の発展に貢献せんとする「志」のある生徒を育成する。</p> <p>5 高い目標を掲げて粘り強く努力し、将来の地域や日本を担う、強いリーダーシップを持つ生徒を育成する。</p> <p>6 広い視野を持ち国際社会で信頼されるために必要なコミュニケーション力や異文化理解の態度を備えた生徒を育成する。</p>	
教 務 部	教務課	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
		生徒の第一進路希望実現に向けて、多様な生徒に対応できるカリキュラム編成と、中高6年間を見通した計画的な教科指導法を研究する。	自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成に向け、大学入試改革の方向性を鑑み、多様な進路に対応できるように、柔軟な視点から教育課程を検討する。教科バランスや科目の評価・検証を行い、今後の方向性と方策を考える。		
		生徒が主体的・能動的に学ぶ姿勢の育成と、生徒の深い学びを促す授業展開、教師の指導力向上を目指す。	主体的学習習慣の確立に向けて、定期的に学習時間調査を実施。1日平均3時間以上の家庭学習時間を達成する。内進生進学を契機に、中高での指導内容・教授法の共有をさらに推進し、教科書選定、考査問題の作成形態等に関しても中高合同で協議する。		
	迅速な成績処理、厳正な公簿管理により、生徒の円滑な学習活動を助けるフィードバック、情報提供を適宜行う。	考査成績や各種調査等を迅速に処理し、生徒の学習を適宜督励する。進路指導課と連携しながら、総合的な学習の時間の充実を図り、生徒の向学心を高め、進路目標確立につながる有意義な情報提供を行う。			
図書課	具体的目標	生徒の読書意欲を高め、読書する習慣を身につけさせ、読書を通じて広い世界を学ぶ心と豊かな想像力をはぐくみ、自ら学ぶ力を育成する。	図書館オリエンテーションを実施し、図書館を利用しやすい雰囲気を作り、読書意欲を喚起する。 朝読書の意義を理解させ、静かに集中して読書をする習慣をつけさせる。		
		芸術鑑賞を設定し、優れた芸術に触れ、芸術への興味関心を深めさせるとともに、豊かな人間性を形成する一助とする。	芸術鑑賞を通して本物の芸術に触れる機会を与え、芸術に対する理解を涵養する。		
			保存用の資料収集を継続し、管理の仕方を徹底する。		

	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
生徒指導部	生徒指導課	「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の基本に据え、嘉穂高生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒を育成する。	全校朝礼・始業式・終業式において国歌・校歌を斉唱させ、規律や礼節を重んじ、気高さや品位に満ちた態度を養う。(静止礼の励行)		
		規範意識に優れ、自浄能力を持つ学校及び生徒の育成に努める。	規範意識育成講演会・交通安全講話・自転車点検・駐輪場指導の実施と風紀検査・登下校指導に全職員で定期的に取り組み、登下校時(自転車・バス利用・送迎等)のマナーの向上及び規範意識の向上に努める。		
		自立心と思いやりの心、逞しさを身に付けた生徒の育成に努める。	部活動の更なる活性化を図り、「文武両道」の実践と心身の健全な育成をする。集団活動を通して、他者を思いやる心を培う。		
		生徒会を中心に学校行事の企画・運営を行い成功させる。	生徒会役員を中心に潤陵祭・大運動会等の学校行事の企画・運営を行い、質的向上と指導力の育成を図る。		
生徒指導部	保健課	自己の健康状態を把握し、健康の保持増進を自ら確立できる生徒を育成する。	健康に関する相談事業を学校行事に合わせて適宜実施し、生徒の充実した学校生活をサポートする。		
		生徒の心の健康を図り、自己の健康管理意識の高揚を計る。	スクールカウンセラーによるカウンセリングを年に9回実施し、生徒・保護者の心の健康を図る。		
		特別な教育的支援を必要とする生徒への合理的配慮を推進する。	特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、あらゆる教育活動の場面で合理的配慮をするように努める。また、AEDの研修やエピペンの研修を行う。職員が適切な対応ができるようマニュアルを作成する。		
		美化活動をとおして、愛校心や公共物を大切にす精神を育む。	美化委員会と連携しながら、美化コンクールを通じた校内美化と、ゴミの減量化・リサイクルを推進する。		
進路指導部	進路指導課	社会や地域に対して常に貢献できる人材をつくり、希望進路に向けて努力する姿勢を育成する。	進路講演会や出前講義などのキャリア教育を実施することで、適切な進路情報の提供を行い、生徒と保護者の進路意識を高めていく。		
		進路実現のための学力を身に付けることのできる生徒を育てる。	課外授業・土曜課外・模擬試験・英語資格試験を効果的かつ効率的に企画することで、生徒の第一志望への進学を増やす。		
		自他の人権や生命をしっかりと尊重し、積極的に行動できる生徒を育成する。	自他の人権を尊重する意識や態度を育成するため、年4回の人権教育授業やホームルーム活動を通して、生徒への働きかけを継続して行う。また職員研修の充実を図り、職員の人権感覚を高める。		
進路指導部	情報課	ICT機器を活用した授業の推進	パソコン、電子黒板、プロジェクタ等ICT機器の利用率を高め、生徒が主体的・能動的に学習する授業を推進する。		
		校務用ネットワークの有効活用	教材作成や校務に必要な不可欠なソフトウェアや周辺機器を校務用パソコンで利用できるように整備を進める。		
		学校HPの刷新	本校のHPを、もっと魅力的でスマートフォンからでもアクセスがしやすいようなシステムに改善する。		
研修部	企画広報課	関係機関との連携を図りながら、校内における庶務全般を円滑に行う。	職員室の座席配置図の作成など、職員室の環境整備に努める。また、食堂との連絡を密にし、校時変更など円滑に伝えられるように配慮する。		
		防災教育の推進を行う。	避難訓練計画を再確認し、地震などに対応できる防災避難訓練の実施を図る。また、防災マニュアルを徹底し実践的な防災活動を推進する。		
		中学校・学習塾などへの広報活動を積極的に行う。	中学生の体験入学、中学生進路相談事業の内容を充実させる。ポスターカレンダーを作成し、中学校・学習塾への訪問を積極的に行う。		
		P.T.Aを中心とした地域社会と良好な関係を維持し、幅広い教育活動を活かして、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成に寄与する。	各委員会活動の活性化を図り、学校評議委員会や学校関係者評価委員会を通して、地域の声を取り入れ、学校教育に活かす。		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
研修部	研修課	「氣高さ」を有する生徒を育成するための指導力の向上を目指し各分掌・学年と連携を図りながら、有意義かつ計画的な研修体制を確立する。	中高一貫教育研修など喫緊の教育課題をテーマとする職員研修を年間4回以上実施する。		
		「力をつける授業」をキーワードにし、生徒の進学実績の向上を目指し、保護者・地域の期待に応える。	指導力の向上を目指すため、校外での各種研修への参加を促す。そのため案内を密し、参加しやすい環境を整える。		
		「力をつける授業」をキーワードにし、生徒の進学実績の向上を目指し、保護者・地域の期待に応える。	研究授業及び相互授業参観を通じて、教員間で切磋琢磨して授業力の向上を図ることができるようにする。		
第1学年	嘉穂高生としての誇りを持ち、高い志を持った生徒の育成。	規則正しい生活習慣をつくり、安易な遅刻、欠席をなくす。			
	授業や日常生活の中での規律を重んじ、他者への思いやりと集団に寄与する姿勢を持った生徒の育成。	真心が伝わる挨拶、マナーを身につけるために「静止礼」を実践する。			
	基本的な生活習慣を確立し、自律した生活ができる生徒の育成。	生徒個々を把握し信頼関係を築くために、学期に複数回の面談を行う。			
	授業を大切にし、家庭学習を習慣育成。	授業規律を徹底し、集中力を高めて基礎学力の定着を図る。			
	自分の進路を真剣に考え、その実現のために素直な姿勢で粘り強く努力する生徒の育成。	予習、授業、復習の学習サイクルを定着させ、主体的な学習へと発展させる。			
	自分の進路を真剣に考え、その実現のために素直な姿勢で粘り強く努力する生徒の育成。	大学入試改革に向けて、e-ポートホリオの導入や「10 minute イングリッシュ」(英語リスニング)等に取り組み、早期の対策を講じる。			
	自分の進路を真剣に考え、その実現のために素直な姿勢で粘り強く努力する生徒の育成。	早期から進路を意識させ、文理選択に向けて計画的且つ慎重に取り組む。			
第2学年	嘉穂高校生としての自覚と誇りの育成。	行事等で学年委員会活動を積極的に取り入れ、より自主的な活動を展開し、リーダーの育成に努める。	嘉穂高校生として、常に周囲から注目されていることを自覚し、どのような場でも恥ずかしくない挨拶や行動をさせる。		
	嘉穂高校生としての自覚と誇りの育成。	静止礼の徹底。			
	基本的な生活習慣の確立、社会性や規範意識を伴った自律的精神の育成。	5分前行動の精神で、常に時間に対する意識を持ちながら行動させる。			
	聞く姿勢を大切にし、自主的な学習を実践できる生徒の育成。	自分だけでなく、周囲が快適に学校生活を送れるよう、ルールやマナーを厳守させる。			
	聞く姿勢を大切にし、自主的な学習を実践できる生徒の育成。	課題・予習・復習の学習習慣を確立させ、教科間や学年で情報の共有を図り、効果的な学習を行っていく。			
	進路意識を高め、進路実現に向けて素直に、ひたむきに努力する生徒の育成。	定期的に面談を行い生徒理解につとめ、問題を抱えた生徒への対応を迅速に行い、相互の信頼の構築を図る。			
	進路意識を高め、進路実現に向けて素直に、ひたむきに努力する生徒の育成。	進路指導課・キャリア教育課・KDC と連携を取りながら、生徒へ進路に関する情報の提供を行い、進路に対する視野を広げていく。			
中堅学年として時代のリーダーとしての自覚の育成。	学年集会や学校行事、修学旅行等で、生徒が前に出てくる場面を設けて、リーダーとしての資質を養わせていく。また生徒会役員や応援団を学年全体で育てていく。				
クラス・学年の結束を固め、海外修学旅行を成功させる。	1学期より修学旅行で用いるテキストを用いて事前に学習を行うことで、修学旅行でのコミュニケーションの効果を上げる。また修学旅行前に、事前に異文化理解の必要性について学習する。				
第3学年	嘉穂高生としての誇りと最上級生としての自覚を育成する。	「場を清める」＝ゴミが落ちていたら自然に拾える。 「時を守る」＝遅れると他人の時間を奪うことを知っている。 「礼を正す」＝静止礼の励行。			
	『自律型人間＝集団に貢献できる＝他人に迷惑をかけない』の行動を確立する。	『人より先に「あいさつをする』＝気付きの促し 『呼ばれたら「はい」と返事をする』＝自制心の涵養 『イスを入れる・クツを揃える・窓を閉める・戸を閉める』 ＝慎独(誰も見ていないところでも自ら律する) 手帳を持たせ、スケジュール管理を習慣化させる。			
	進路実現のための指導と支援を行う。	「学は人たる所以を学ぶなり」(吉田松陰)であり、学生の本分は学問である旨を徹底させる。そのために、『学習時間の増加』、『校外模試の重視』、『71期生学力向上プログラム』を継続実施し、教員対象の進路研究会を充実させる。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
理数科	理数科の特性を活かし、理数系を中心に生徒の学力を伸長させ、進路実現を図る。	所属する学年全体を学力で牽引する役割を担う集団であることを理数科生徒に意識させる。また学年全体をリードする素質のある生徒を見出し、リーダーシップが発揮できる生徒を育てる。		
	生徒の知的好奇心を充足できるような活動を創造する。	理数科県内研修の充実を図るとともに、外部講師(科学技術系)による講演会や大学での実験・実習を新たに企画し意識の高揚を図る。課題研究の取り組みを一層充実させる。		
嘉穂 Dream Compass	将来、世界で活躍するグローバル人材育成プログラムを確立する。	各プログラムへの生徒の積極的な参加を促し、さまざまな経験を積ませる。		
	教育及び進路指導のあり方を確立する。	中学校と高校のそれぞれのプログラムを有機的に連携させることを通して、6年間を見据えた取組となるようにする。		
	嘉穂 DreamCompass 事業を全分掌・全職員で実施する体制をつくる。	嘉穂 DreamCompass 推進委員会や嘉穂 DreamCompass 課会議において、情報の共有化を図り、各分掌での取組が円滑に進むよう推進する。		
	外部への情報発信に努める。	HP等を活用し、嘉穂 Dream Compass の取組について情報を発信し、広報活動に努める。		
武道・日本文化コース	我が国の伝統や文化を理解させる。	我が国の伝統や文化を理解するために、学校設定科目を学習させ、特に「日本文化実習」の充実を図る。		
	学力・競技力で高い志を持たせる。	習熟度別授業を取り入れ、生徒の学習モチベーションを高めるとともに、個に応じた指導の充実を図り結果を出す。		
	武道・日本文化コースの生徒に相応した「気高さ」を持つ生徒を育成する。	武道・日本文化コース集会を通して、規範意識を持たせ、コースの中から学年および学校の核となる生徒を育成する。		
	国際社会の一員としての資質やコミュニケーション能力を育成する。	学校行事に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を育成する。また、講演を実施し、生徒の資質向上を図る。		
	進路希望実現を図る。	卒業生による進路講演を行うなど進路実現に向けた指導を行う。推薦で進路を決定する生徒が多いので、評価については、一年次から職員間の意思統一を図る。		
確かな学力の育成	観点別学習状況の評価及び言語活動の視点を取り入れた授業を実施する。	次期学習指導要領に向け、国立教育政策所が示した「評価規準作成、評価方法の工夫改善」を参考に評価規準の設定に取り組む。また、評価規準の設定を含めた指導と具体的な評価方法等について継続して研究を行う。		
	評価規準を明確にし、指導と評価の一体化に学校全体として取り組む。	生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導改善に生かすという視点に立ち、効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る。		
	生徒の自主的な学習意欲及び教員の教科指導力を更に向上させる。	相互授業参観や生徒による授業評価を積極的に活用し、教員の意識改革に取り組み、指導力の向上に努める。		
いじめの撲滅	全教職員がいじめの発生についての危機意識を持ち、その防止に学校全体で問題に取り組む。	SNSを介したいじめ問題や非行防止に関する講演会や学年集会を行うとともに、職員研修を通して、学校全体で「いじめ問題」に対する情報を共有し、その対応の共通理解を図る。		
	教育活動全体を通じて、いじめは絶対に許されない行為であることを生徒に認識させる。	学校生活アンケート(年12回)及び家庭用チェックリスト(年3回)の結果を職員で共有し、生徒からのいじめのサインを早期に発見して適切な対策を講じる。また、特別な教育的支援を必要とする生徒のサインも早期に発見し、教育活動において合理的配慮をするように努める。		
	家庭や地域、関係諸機関と連携を図り、「いじめ問題」の早期発見・早期対応に努める。	学年会議において生徒の状況を常に把握するとともに、「いじめ問題対策委員会」を開き、「いじめ」に対する緊急の対応及び中・長期的な対応を検討し、実行する。		